

# 初対面時の好感をもたらす非言語コミュニケーション

○梅野利奈, 渋谷昌三 (目白大学社会学部)

キーワード：好感, 非言語コミュニケーション, 対人関係

## 問題

好感・非言語コミュニケーション尺度 (梅野・渋谷 2015) は、他者に好感を抱く際に、手がかりとする非言語コミュニケーションを評定するために開発されたものである。本尺度は、笑顔や相槌といった、主に会話時に表出する「会話的NVC」、身長や服装といった「外観的NVC」、歩き方や姿勢といった「動作的NVC」の3因子であり、記述統計結果では、「会話的NVC」に含まれる項目が上位を占める結果となった。

本研究は、この結果を踏まえ、さらに考察を深めるべく、初対面の2者による対話実験を通して、初対面の相手に好感を抱く際、どんな非言語コミュニケーションが手がかりとされているのか、また、好感がもたれる人はどのような非言語コミュニケーションをとっているのかを、観察、分析することとした。

## 方法

実験参加者：女子大学生26名によるペア13組(年齢：M=19.88, SD=2.04)を対象に行った。初対面同士の女性ペアになるよう、学部や所属する部活・サークルを考慮して実験群を構成した。

調査時期：2015年10月～11月。

実験デザイン：3分間にわたり2者による会話実験を実施し、実験終了後に相手への評価を質問紙で測定した。会話状況の記録として、両参加者の斜め後ろにそれぞれビデオカメラを設置し、参加者には頭にウェアラブルカメラを装着してもらった。また、考察の参考として、会話内容、実験担当者による実験時の様子を記録したメモを用いた。

質問紙：①好感・非言語コミュニケーション尺度 (梅野・渋谷, 2015) ②対人魅力尺度 (内藤, 2011)：本研究に則すよう、7項目を削除し、「3.親しみを感じる」、「7.もう会いたくない(逆転項目)」、「12.話していて楽しかった」、の3項目を追加した。そして、相手への評価と個人特性との関連をみるために、③対人不安傾向尺度 (松尾・新井, 1998)、④親和動機測定尺度 (岡島, 1988) ⑤自尊感情尺度 (山本・松井・山成, 1982) の3つの尺度を使用した。さらに、⑥自由記述回答で会話の感想を求めた。

## 結果

対話相手の非言語コミュニケーションの各項目がどの程度好感につながったかを評定する、好感・非言語コミュニケーション尺度の結果と、対話相手にどの程度好感をもったかを評定する、対人魅力尺度との相関関係を検討した。なお、それぞれの尺度の因子構造は、先行研究の結果にならって決定した。その結果、好感・非言語コミュニケーション尺度の「会話的NVC」と、対人魅力尺度に正の相関がみられた。一方で、「外観的NVC」、「動作的NVC」において、相関はみられなかった。

さらに、自由記述をもとに、対話相手に好感をもった点をKJ法にならってカテゴリ化した。その結果、非言語項目とされる全35件のうち、「会話的NVC」に含まれる項目は全25件と最も多く、相関分析の結果を支持するものであった。さらに、項目別にみたところ、最も多かったのは、「笑顔」(9件)であった。なお、相手への好感評価と、評価者自身の対人関係に関する個人特性との関連をみるために、対人不安傾向尺度、自尊感情尺度、親和動機尺度と、好感・非言語コミュニケーション尺度の相関分析を行ったが、関連性はみられなかった。

表1. 好感・非言語コミュニケーション尺度と対人魅力尺度の相関(N=26)

|        | 好感・非言語コミュニケーション尺度 |        |        | 対人魅力          |
|--------|-------------------|--------|--------|---------------|
|        | 会話的NVC            | 外観的NVC | 動作的NVC |               |
| 会話的NVC | —                 | .093   | .325   | <b>.606**</b> |
| 外観的NVC | —                 | —      | .494*  | .015          |
| 動作的NVC | —                 | —      | —      | -.117         |

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$

## 考察

これらの結果から、「会話的NVC」は、初対面の相手に好感を抱く際、重要な役割を果たしており、なかでも笑顔は最も重要であることが確認できた。ただし、本研究は評定する対象者や、会話内容を統制した実験ではなく、13組という少なさから、定量的な分析には限界あるといえることから、さらなる検討が必要と考える。

## 参考文献

梅野利奈・渋谷昌三 (2015). 好感・非言語コミュニケーション尺度の作成. 日本社会心理学会第56回大会論文集, 337.